

令和3年度

私費外国人留学生入試

【人間学群 障害科学類】

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
小論文	<p>出題意図</p> <p>1. 出題意図</p> <p>(1) 留学生を対象にした試験ということから、障害科学類の主要のテーマである障害のある人へのバリアフリーについて述べられた文章を問題文として選び、理解力と考察力をみる問題とした。具体的には、障害がある人にとってのバリアがどのようなものであるかということをも4つの観点から解説した文章を取り上げた。</p> <p>(2) 問1は問題文の日本語の文章理解度と、障害のある人にとってバリアが生まれる理由を確認するための設問である。それに対して、問2では、問題文を踏まえて自分の考えをきちんと日本語で表現できるかどうかをみる小論文を課した。</p> <p>問1</p> <p>解答例; これまでは障害のない人が多数を占めていることから、障害のない人に合わせて社会がつくられてきた。そのため、障害のある人にとっては生活しにくい環境があり、困りごとが生じようになった。(89字)</p> <p>問2</p> <p>解答例; 障害のある人が社会の中で直面するバリアを解消していくためには、まずは障害のある人のことを、障害のない人が正しく理解することが求められる。私は、ボランティア活動で、障害のない人とある人が一緒に取り組むスポーツに参加したことがある。その時、障害のある人も参加し楽しむことができるようなルール工夫がなされていて感動した。これは、正しい障害の理解があればこそ、障害のある人もない人も参加でき、一緒に楽しめるルールが開発されたと考える。したがって、バリアを解消していくためには、まずは障害について正しく理解することが不可欠と考える。</p> <p>そして、障害のことを理解する方法としては、疑似体験もある。例えば、車いすにのった経験のない人が地域の中を車いすで移動し買い物などを体験してみると、車いすを利用している人の立場、そして地域社会における物理的バリアなどについて理解することができると思われる。こうした疑似体験も、障害のある人の立場にたって考え、バリアを解消することにつながると考えられる。</p> <p>さらに、障害のある人から、地域社会でバリアになっていることなどをうかがい、そのバリアを解消していくための方法を障害のない人と一緒に考えるとともに、広く知ってもらうような機会を設定することも大切になると考える。私は、先のスポーツを体験した際に、障害のある人が日頃から感じている偏見や差別など意識上のバリアの話をうかがった。そして、同級生にも障害のある人の立場が感じているバリアを伝えた。ただ、私が伝えた範囲は限られており、障害のある人、当事者の考えをより広く知ってもらうような仕組みが必要であると感じている。</p> <p>以上のように、障害のない人が、それぞれの障害のある人について正しく理解し、さらに疑似体験などで理解を深め、障害のある人からの意見をうかがうような機会の確保がバリアの解消に向けて、重要になると考えられる。(791字)</p>